

8月定例会のご案内

- 20周年について、その都度の報告と取り決め。
- 会報のルール作り。
- 情報交換・質疑応答・近況報告等。

8月は上記を中心に行います。
20周年関係実施前の定例会での報告は今回が最終になります。

日時	8月21日(月) 午後7:00~午後9:00	〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-50-5 ホテルラングウッド5階 03-3807-3211 JR・京成 日暮里駅前より徒歩約5分。
場所	日暮里サニーホール 第3会議室	

7月定例会の報告 (2017/7/10)

20周年行事の進捗状況の説明や追加討議を行いました。
大体、形が出来上がって来ました。※2ページ参照

その後は会員間でのいつものごとくにぎやかに質疑応答の時間でした。
ビズネットはやはり「質疑応答」で「現場からの声」がしっくりときますね。



参加者のみなさん。
→ 近藤さんが実は手術入院されて
いましたが、復活。
いつもと変わらぬ元気ぶりでした。

- HP向けに吉岡さんが相変わらず精力的に動いております。

8月4日(金)は13:00から脇田さんのパソコン教室をお借りし、会員同士で20~30分くらいの
トーク番組を撮影。この10年のビデオの仕事や機材の変化とか、今後の事等を話す予定。
(吉岡)

20周年記念行事について

	項目①	項目②	詳細		主担当者
1	開催日時	一泊で実施	H29.9.5(火)～6(水)	決	
2	宿泊場所	箱根湯本	ホテル南風荘 (箱根湯本茶屋179) (原則、宿泊。仕事等で止むを得ない場合のみ日帰り可)	決	高橋
3	規模	15人前後	会員・ビジター中心	決	
4	会員 会費	10,000円	会員のみ会から補助出す(7月定例会で決) (※交通費・昼食費等は各自負担)	決	
	一般参加者 会費 (会員以外)	14,730円	宿泊費実費 (一泊二食・税・入湯税込)	決	
5	内容	当日の撮影素材を編集して上映する	①撮影 ②編集 ③オーサリング④上映 尺は短めに。目的は「各自の作業手順等の確認」。 機材(PC一式・プロジェクター等)持ち込み	決	撮影:上河
		親睦会	夕食時(二時間)		機材:高橋
6	タイムスケジュール	一日目	10:00箱根湯本駅集合～撮影～昼食～チェックイン～編集～オーサリング化。親睦会。	概略	
		二日目	上映。チェックアウト後、近隣観光。		
7	対外的対応	VS誌7月20日発売号に関係記事掲載。半ページ分。		決	吉岡(原稿)
		「20年」のアピールを40%くらい			
		会員募集・起業希望者による当日の見学者募集を35%くらい			
8	記録撮影	二日間を記録	動画&スチル。後日ホームページへアップする。	決	上河
9	HP告知	進捗を更新	VS誌8月号(7月20日発売)後、HPチェック者が予想されるので適時更新。	決	吉岡
10	会報のデータ化 (唯一の記念品扱)		会報の電子化。(入手や手元にあるもの) 会員各自は冒頭に文を寄せる	決	脇田
11	旧会員へのお誘い		「各会員からの個人的なお誘い」にとどめる。 ※参加される方は、お誘い者から高橋まで連絡下さい。	決	各自
12	知人・友人へのお誘い		参加される方は、お誘い者から高橋まで連絡下さい。	決	各自
13	10年間を振り返る ブース設置 (机一脚程度の簡潔なもので)	DVD(BD)化して常に再生しておく	会員の作ったDVD(各自1本:)		任意
			折口さん・松本さんのDVD		敏さん・吉岡
			10年間を振り返った会員のインタビュー映像		吉岡
			過去の会報		

西湘のビデオ屋稼業⑥

高橋 昌一

(私文です。個人的印象も含まれています)

●時折感じるのが「ビデオの仕事って、基本ゼロから積み上げていく商売だなあ」ということ。十数年前にビデオ稼業と決めたものの、なにしろ被写体が何もないゼロからスタートで、まずは顧客の獲得、そして撮影→編集→BD/DVD化になってはっきりとした映像になってくる。この「何もないところから、最後は形(映像)になってお客さんに提供」できていることに「なんだか不思議な商売だなあ」と。当たり前と言えば当たり前なのですが…

まあゼロスタートの商売は他にもたくさんありますけどね。

●7月は2園の「お泊り保育」撮影を行った。撮影カット数は1園(対象80人位)、一泊二日で1,000カットくらい(納品BD/DVDは2枚組になる)。この暑い時期のお泊り保育撮影は、数ある撮影の中でもハードさは断トツ。撮影日が近くなるとややブルー掛かってもくる。特に猛暑の今年は心身の消耗は予想通り。撮影を終えた後の充実感(疲労感?安堵感?)はいつもより大きかったです。

お泊り保育の撮影は、発表会のステージでの、あるいは運動会のグラウンドでの撮影などとまったく違って、その場所から飛び出した撮影になること。実際には屋内外の場所を大きく移動しながら、移り変わる出来事のそのつどの様子を撮影していくことになる。園児全員の公平撮影に留意しながら、視点やサイズを決め、カメラを回していくのはとにかく忙しくて大変だが、園児との近い距離感には楽しいものがある。またビデオはスチルよりは「時間」を入れ込むことが容易なので昼夜の「時間の流れ」をあれこれと表現できるのもならでは。

●ビデオ屋稼業初期のころ、ある幼稚園さんの発表会ビデオの中に、別撮りで園児全員の顔を入れたことがあった。現場音はミュートしてBGM挿入で行ったが、愛らしい表情も相まってかなり評判も良かった。(その別撮りは現在も続いている)が、あるときそのBGM処理に急に違和感を覚えてからは現場音のみで仕上げている。

この撮った映像を5年10年後にも観たら現場音のままの方がいいはずなのに、初めは何となく格好つけることばかりを考えていた。もちろん今はどのビデオもほぼありのままで編集している。このありのままの重要性に気づけたことが、その後のある転機の一つにもなった。

と言いながらも、ほんのごくまれにBGM処理をするときがある。それは撮影に失敗してどうしようにも打つ手が無くなった時に。これは格好わるい例。

●別の幼稚園のお母さんからのリクエスト話。

「発表会も運動会もキッチリした映像でそれはそれでいいのですが、それだけでは無く、たくさんのお友達と一緒に映像も観たい。それもできるだけみんながグシャグシャ(確かにそう言いました)になっている映像がいい」と。(そうか!それも有りだ!!)

このリクエストも、何かと型にはめた撮影になりがちな自分にとって大いに覚醒となる一言になりました。ヒントはやはり現場で見つけやすい??